

つばめのよう

武部 楓たけべ かえで

七月のはじめ、ぼくのいえにつばめがきました。つばめのす

は、きよ年から作られて、今年はたまごをうみにきました。少ししたら、たまごから赤ちゃんがかえって、まい日まい日親つばめがえさをはこんできました。雨の日も風の日もあつい日も、一生けんめい赤ちゃんをそだててました。夏休みの前の日、つばめの子たちは、すをとびたつていきました。ぼくのおかあさんは、

「さよならも言わずにいつてしまっうなんてさみしいな。」

といいました。ぼくもそうおもいました。

でも、つぎの日、たくさんのつばめをつれていえのまわりにとんできました。ありがとうといっているみたいでした。うれしかったです。

その時、ぼくはおとうさんとおかあさんのことをおもいま

した。

ぼくのおかあさんはまい日おしことからかえって、ごはんをまい日作ってくれます。ぼくのおとうさんはいろんなことを教えてくれます。ぼくのおとうさんとおかあさんは、つばめのように一生けんめいぼくたちをそだててくれてます。つばめつてすごいなとおもっていたけれど、ぼくは、おとうさんとおかあさんもすごいなとおもいました。そしていつもありがとうとおもいました。

またらい年、つばめがかえつてきて、子つばめをそだてるのを見るのがたのしみです。ぼくもこれからおとうさんとおかあさんにありがとうとおもいながら、つばめのように元気にがんばりたいです。